

越前若狭 歴史巡り 偉人群像

激動の幕末にあった静寂
福井藩・松平家別邸

養浩館庭園

ようこうかんでいえん
【福井市】



幕末の偉人群像



福井市郷土歴史博物館蔵

松平春嶽

まつだいらしゅんがく

文政11年(1828)～明治23年(1890)

第16代福井藩主・松平春嶽は、弱冠11歳で田安徳川家より迎え入れられ越前松平家の家督を相続。財政改革や教育改革、さらには軍備増強にも取り組むなど、その政治手腕は広く知られ、橋本左内や由利公正など、実力のある人物は身分を問わず積極的に登用した。幕末の動乱期に宇和島藩主・伊達宗城、土佐藩主・山内容堂、薩摩藩主・島津斉彬とともに「幕末の四賢侯」とも称された。



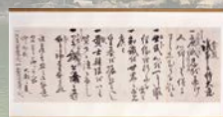
福井市郷土歴史博物館蔵

由利公正

ゆりこうせい

文政12年(1829)～明治42年(1909)

坂本龍馬が新政府の財政担当に登用するよう懇願した人物が、福井藩主・由利公正(三岡八郎)だった。熊本藩主・横井小楠に師事し、藩札の発行や産業振興で福井藩の財政を立て直し、明治政府では現在の財務大臣に当たる参与会計事務掛に就任



「五箇条の御誓文」の基になったとされる「議事之体大意」



福井市郷土歴史博物館蔵

橋本左内

はしもとさない

天保5年(1834)～安政6年(1859)

医者の家庭に生まれた橋本左内は弱冠15歳で心得『啓発録』を記し、福井藩政への登用が決まると、藩校「明道館」で教育の振興を行なう。その後松平春嶽公に登用され、徳川慶喜(後の第15代将軍)擁立に奔走するが、安政の大獄にて処刑される



福井市左内町にある「左内公園」に石碑と墓が建っている

幕末期の福井は重要な役割を果たした場所でした。「幕末の四賢侯」と称された名君の一人、福井藩主・松平春嶽の下には有能な人物が集まり、坂本龍馬も何度もこの地を訪れています。將軍継嗣問題から安政の大獄が起こり、春嶽は塾居させられますが、明治維新が起きてからも新しい日本の礎を築く人物がこの福井から生まれていきました。福井市内にある「養浩館」は、です。激動の時代を志士とともに生き続けた「養浩館」は、凛とした姿で存在し、憩いの場として愛されています。

かつて「御泉水屋敷(おせんすいやしき)」と呼ばれていた、福井藩・松平家の別邸。福井城址より北に約300mに位置し、幕末には洋式銃の製造所にもなっていた。池を全方向から見渡せる、回遊式林泉(りんせん)庭園となっている。数寄屋造りの座敷部も池に接し、眺望もよい